

〔茶道早合點〕下杯臺○圖

とさんなり、唐物焼物、時代塗物を用ゆ、

〔好色一代女〕六暗女晝化物

されども手の達く棚の端に、臺盞爛鍋を並べ、○中絶えず取肴のある事、ひとつなる客は是も喜
悦なり、

〔風流曲三味線〕三長老様の聳引出物

二瀬は紺の布子に、あかまへだれ胸あけかけて、左の手に臺盞とさん、右の手に爛鍋もつて出、○下

盃

〔貞丈雜記酒盃〕七一盃の臺とは、洲濱の臺今は鳥臺と云などに、花鳥、山水、人形などの、作り物をして、それに
盃をすへて出すを云也、

一盃の臺などに、草木の花葉などを作りさす事あり、けづり花を本とすべし、けづり花とは、木を
かんなにてうすく削りて、夫にて作る故、けづり花と云也、

〔躰方明記〕五酌之事

一盃の臺は、るをかくもあり、又白木も有べし、白木賞翫たるべし、盃は何れも金盃なり、

〔年賀式〕盃臺は松竹梅の大飾を用ゆ、其外西王母が桃花橘等を用ゆべし、猶四季盃臺の書を考時
節の物を用べし、土器の中へ壽の字を箔にて置べし、

〔宗五大草紙〕上大酒の時の事

一盃の臺にすはりたる盃の事、貴人の御盃ならばいくつもあれ、一ツ、いたゞきてのむべし、○
略

〔天内問答〕一御盃の臺は何獻目に可參候哉の事

七獻目ばかりにも可參候か、但是も獻數にもよるべく候、餘にはやく參候はぬ事にて候、